

先日のクリスマス保護者会には、お忙しい中 お集まり頂きまして、心より感謝申し上げます。その後のアンケート等でも 感想を始め心温まるお言葉をお寄せ下さり ありがとうございます。今年は 感謝祭礼拝を 収穫の豊かな実りとともに、生きる上で何より大切な 互いを思い合う心を感じたいと、幼児クラス子ども達の劇遊びを中心に、全員で 分かち合う時を過ごしました。自分以外の存在のために 心を使い 時間を費やし 力を尽くすこと…人として 当たり前前の想いを子ども達の姿を通し 改めて神様から気づかされた、とても温かな今年の感謝祭礼拝となりました。その子ども達の心をそのまま 保護者の皆様にも分かち合って頂きたいと思い 会食のコーナーは子ども達にお任せしました。クリスマスの本当の意味を知り 交わりの中でクラフトを楽しんだ後 みんなの愛がいっぱい詰まった数々のおもてなしに、すべての人達が笑顔になった あの時間こそ、神様が願っている愛し合う姿であり、ほんとうの感謝、クリスマスの在り方なのだと実感しました。

そして いよいよ12月です。2日(日)、全世界のキリスト教会や施設では、クリスマスを待つための準備の4週間として過ごす『待降節』 Advent Week (アドヴェント) に入りました。つのぶえ保育園では 22日(土)のクリスマス礼拝にあわせ、4週間でさかのぼって 一足早く先月11月30日(金)に アドベント・克蘭ツの1本目のキャンドルに 灯がともされました。部屋の電気を消し、たった1本のろうそくのささやかな炎だけが 静かに温かく明るく輝きました。その瞬間 思わず「わぁ!」「きれい!」と声をあげて パチパチと拍手をしながら ちいさな光をじっと見つめる子ども達の顔は 皆、ほんとうに穏やかで やさしい微笑みに あふれていました。一人ひとりの心の中にもクリスマスの温かな愛の光が静かに注がれたことを感じたひと時でした。そして、先週の金曜日には 2本目のろうそくが立ち、明日の 3つ目の点火を 心待ちにしながら クリスマスカラーに彩られた保育園の中で クリスマスまでを数える“アドベントカレンダー”に 瞳を輝かせ 心をときめかせて あちこちの飾りや大きなツリーにも大喜びしている子ども達です。

今から2018年前、神様のひとり子であるイエス・キリストは 人となって誕生されました。神様によって創られたアダムとエバから続いた人間達の心は永い時を経て神様からすっかり離れ、争いや憎しみが繰り返され、自然や生命の営みの歯車も狂い、闇がはびこる恐ろしい世界でした。その中に在って神様を信じていた僅かな人々は、昔から聖書に記された約束『救い主の誕生』を信じて待ち望み、この暗黒の世界に 輝く希望の光が訪れる時を、ひたすら祈り続けていました。何年も何年も待ち続けた救い主の誕生は、処女マリアへの 言葉(神様の聖霊)による受胎告知、旅先バツレヘムでの出産、しかもその場所は町はずれの宿屋の小さな馬小屋の中という すべてが 人知を遙かに超えた不思議なことばかりでしたが、これらこそが 神様の必然によるクリスマスの 真実の意味、私達人間への愛のメッセージでした。その救い主誕生の知らせを最初に受けたのは 野宿をしていた貧しい羊飼達でした。ずっと昔から伝えられてきた 神様の言葉を純粹に信じた 彼らは御告げを喜び、すぐに立ち上がりお祝いに行きました。素直な心が ほんとうに印象的です。次にお祝いに来たのは 追いやられた遠い東の国で 救い主のしるしの星を見つけた博士達でした。イエス・キリストは、こうして、動物たちに囲まれて 誰にも注目されず ひっそりと誕生しました。どんなに身分の低い立場でも どんな人であっても、平等に会いに来られる 馬小屋という場所は 誰にとっても 最も近いかたちで降りて来られたことの象徴であり、社会から見捨てられた者や 人々から見失われた存在にこそ 光を当てられ 生命の息吹を温かく注がれていることを感じます。そして聖書には『その名はインマヌエルと呼ばれる』それは訳すと「神が私たちと共におられる」という意味である。(マタイ 1:23)と記され、いつもそばにいてくださると約束されています。クリスマスとは この神様の愛を感謝しイエス・キリストのお誕生に捧げる礼拝そのものなのです。どんなに煌びやかに輝くイルミネーションにも優る この貴い光の訪れに 自らの心の扉を開いて ろうそくのように 温かでやさしい 灯を互いの心に灯し合える 笑顔の時を過ごし合えますように 世界中の人々の心にクリスマスの平和の光が注がれますよう 心からお祈り致します。(石田 記)